

## 安心して暮らせるまちを目指して

笠松町長 広江 正明



皆様方におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、平素より町行政に対しまして、多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、猛暑、台風、豪雨など、異常気象が各地で被害をもたらし、安全に対する備えの重要性の認識を一層強めたところであり、更なる地域防災力の取組みを進めてまいります。

災害は、いつ私たちの身にふりかかってくるか分かりません。皆様におかれましても、一人ひとり家庭で出来る災害対策を行っていただくとともに、日頃から地域の自主防災訓練や町内会行事に積極的に参加されるなど、隣近所との距離感を身近なものとし、いざという時に助け合える関係性を築いていただくことが重要です。

町においても、平成31年度末の雨水貯留施設供用開始に向け整備を進めるとともに、ブロック塀除去や家屋の耐震診断、耐震補強、防災士資格取得の費用助成など様々な支援を継続して行ってまいります。

さて近年の日本は、少子高齢化の進行、雇用問題や環境問題など、さまざまな課題が山積する厳しい社会経済情勢にあります。当町におきましても、限られた財源の中で、創意工夫をもって各種施策を推進し、良質なサービスを効率的

かつ効果的に提供していかなければなりません。

そして、住み慣れた家や地域で、自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、医療・介護・住宅・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を進め、行政をはじめ住民の皆様や企業関係者の方々が地域の問題を我が事と考える地域共生社会を目指しております。高齢の方に限らず、子ども・子育て家庭など住民の皆様が、このコンセプトを共有し、笠松に住んでよかったと思われる体制づくりを行ってまいります。

また4月より、より安心して出産や子育てをしていただけるよう「子育て世代包括支援センター」を設置します。妊娠期から出産、子育て期の様々な悩みごとや困りごとなどの解決に必要な情報提供やサポートなど、切れ目のない総合的な支援を行い、子育てしやすい環境を整えてまいります。

全ての世代の方が安心して、いきいきと暮らしていけるよう、個性と活力を活かした魅力あるまちに向けて邁進していく所存でございますので、皆様には引き続き、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

## 未来に展望の持てる、 安心・安全な町へ

議長 尾関 俊治



あけましておめでとうございます。

輝かしい2019年の新春を迎え、町議会を代表いたしまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様には、笠松町議会に対し、ご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年を振り返りますと、大阪北部地震をはじめ、西日本を中心に各地に被害が及んだ7月豪雨、岐阜県下で最高気温40度を超える日も記録した猛暑、当町でも倒木被害などが発生した台風21号の上陸など、全国各地で災害が発生したところでもあります。

このような中、木曾川に沿った当町では、水害への備えや南海トラフ巨大地震への対応など災害に強いまちづくりは大きな課題であると認識し、ブロック塀除去費用に対する助成制度の拡充や、雨水貯留施設の計画的な整備、地域の防災リーダー養成、避難行動要支援者システムを活用した実効性のある避難支援など、ハード・ソフト両面において住民生活に直結した施策が図られています。

また、子育てや教育環境の諸施策についても、中学3年生までの医療費無料はもとより、小・中

学校のICT（情報通信技術）環境整備、幼少期からの英語教育の推進など、充実した環境整備に取り組んでいます。

2019年は、4月30日に天皇陛下が退位され、平成が終わり新しい時代が始まります。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本の経済が活性化していくことが期待される所がありますが、当町では厳しい財政状況が続くと予測され、安定的な行政サービスの提供をはじめ、少子高齢化に伴う福祉、教育など様々な課題が山積しております。

町議会としましても、未来に展望の持てる、安心・安全な住みよい町づくりを目標に、町執行部と共に笠松町の両輪となり、町民から選ばれた住民の代表であるという自覚を持ち、常に住民目線で町を見つめ、町民の皆様への負託に答えるべく身近で開かれた議会を目指して、本年も関係各位との連携を深め邁進していく所存です。

結びに、笠松町の発展と町民の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます、年頭の挨拶とさせていただきます。

## 謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

平成31年 笠松町議会